

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
読解力・学力向上	①「上小ホームワーク」や「上小チャレンジカップ」を継続し、学習の習慣化と学習意欲の向上を図る。②読書タイムの活用や単元づくりの工夫・言語活動の充実を図り、児童が「知りたい・やりたい・伝えたい」と思える学習を展開していく。③言語能力を高めるための継続的な取組を行う。	「上小ホームワーク」や「上小チャレンジカップ」の継続、重点研や重点言語活動の取り組みが、計算や漢字等の基礎学力定着の面で効果があったが、読解力についてはまだ課題が残る。児童が主体的に学ぶことができる単元づくりを今後も続けていく。	B
豊かな心	①自主性を高めるとともに、よりよい合意形成ができる力を育むため、児童が主体となって計画する活動を異学年交流の中に取り入れる。②互いの気持ちを伝え合うことで、豊かな人間関係の構築に向け、年間を見通した異学年交流を計画する。③日常の生活と結びつけ、振り返りを大切にされた道徳の授業改善に取り組む。	なかよし班遊びや体力テスト、上小オリンピックなどの各行事で異学年交流の機会があり、また振り返りを大切にできたことで充実した。活動の中で、高学年が他学年を思いやる気持ちも育っていた。今後、全児童がより主体的に取り組めるような内容にするため、活動の内容を検討していく。	B
健康・安全教育	①学校保健委員会のテーマに沿って、「けがの防止」について学び、健康な心と体について意識の向上を図る。②手洗いを徹底し、感染症の予防を図るとともに全校児童で縄跳びや持久走に取り組み、健康・体力の向上を図る。③児童自らが考え動き、危機管理意識を高められるような避難訓練を計画する。	学校保健委員会では、毎月の学級のためあての振り返り、けがマップやけがのポスター等の取組を通して、けがの防止につながった。体力アップは、年間の計画に基づく活動時間が十分に取れず、短期的な取組になった。そのため、他活動と時間の調整を行い、継続できるようにしていく。	B
地域連携・学校運営協議会	①学区探検をはじめ地域に目を向ける活動を通して、地域の歴史や魅力を再発見するとともに地域理解を深める。②学校だよりやHPなどを通じて情報発信を行っていく。③「地域・学校防災の日」の内容を充実させ、保護者や児童の防災に対する意識を高める。	コロナ禍のため地域と触れ合える機会が減ったが、上フェスや感謝の手紙などで関わることができた。また、まち探検を通して地域の様子に関心を向けることができた。HPの頻繁な更新や掲示などで活動の様子を伝えることができた。	B
いじめへの対応	①小規模校のよさを生かし、全教職員が子どもに関わり、情報共有、児童理解に努める。②定期的な「いじめ防止対策委員会」の開催や児童への生活アンケートを通していじめの未然防止、早期発見に繋げる。③チーム対応を原則とし、ケース会議を適宜設け、課題解決する。	全職員が情報を共有することで様々な場面での児童への声かけや対応がきめ細やかに行われ、それがトラブルの早期発見、いじめの未然防止に繋がっている。定期的な「いじめ防止対策委員会」やケース会議の開催により、組織的な対応を行うことができた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①児童と向き合う時間や授業準備の時間を確保するために職員室アシスタントやICTを活用し、効率的・効果的な業務を推進する。②ブロック研や三部会を充実させ、組織的にPDCAを行うとともに、職員同士が高め合える環境を作っていく。	職員室アシスタントの増員により業務軽減と学級事務・教材研究及び校務に係る時間確保につながった。三部会では担当者の明確化と内容の分散により、会議時間の短縮を図ることができた。今後はより多くの情報を集め、多角的に分析できる方法を検討していきたい。	B
特別支援教育	①担当教諭と担任との連携を図り、個に応じた指導内容の工夫とさくら教室(特別支援教室)の効果的な運営を行う。②全学年で継続的にコグトレに取り組み、楽しみながら認知機能の向上を図る。③見通しをもって取り組むためのユニバーサルな学習環境を整える。	連絡シートや特別支援教室担当者との打合せを通して、毎時間の指導内容を明確にしながら個に応じた学習支援を行うことができた。児童の達成感や保護者の安心感にもつながっている。多くのニーズに応えるため、入室条件の明確化や担当教諭の配置数といった運営の工夫改善をしていく。	A
人権教育	①違いや多様な考えを認め合い、安心して自分を表現できる授業環境をつくる。②年間を通して計画的にYPIに取り組み、自尊感情を高めるようにする。③道徳での学習や振り返り、人権週間の取組などを生かし、日常における人権意識を高めるようにする。	人権週間では、体験を通して考えることができ、異学年で活動したことで、多様な考えに触れる機会になった。来年度はいろいろな立場の人や専門家の話を聴くことを検討していく。更に、言葉の違いが見られることから、人権意識を高めるために、道徳での指導・振り返りだけでなく日常の指導も継続していく。	B
児童指導	①全職員で児童の様子や問題行動を共有し、対応を統一することで組織的に児童指導にあたる。②定期的にスタンダードの確認、見直しを行い、職員が同じ意識で児童の規範意識を高めていく。③道徳科での学習、日常での指導を通して、「自分から進んで」「表情を見て」挨拶することのよさを理解し、実践できるようにしていく。	全職員が気になる点を共有し、保護者とも共通理解を図りながら指導、支援を行ってきた。そのことが、子ども達が安心して楽しく過ごすことにつながっている。挨拶については、することのよさについて実感し、自発的なものになるような取り組みを行っている。	B
ブロック内評価後の気付き	教科会を通して、ブロックでめざす姿を実現するための各校の取組について共有を図った。行事や部活動を通じた縦割り活動の充実により、上学年が主体的に活動を展開していることが成果として挙げられる。一方、思いを言語化して考えを伝え合うことに課題があることが分かった。次年度は中学校の授業見学を通して、相互評価の視点や児童の課題をより明確にし、具体的な手立てについて共有を図っていききたい。また、児童間の小中交流について、中学校より人権講演会での小中合同グループ協議会の提案があった。4校合同開催は見送りとなったが、参加できる学校で日程調整を図り、考えを伝え合うための交流の場を積極的に設定していきたい。		
学校関係者評価	コロナ蔓延前と比べ行事や活動に制限があったが、「上小フェスティバル」を参観し、工夫して学習を進めてきたことが分かった。小規模校のよさを生かし、一人ひとりに台詞や役割があることは、人前で話す自信につながり、本校の目指す主体性にもつながるものと考えた。また、「上小ホームワーク」や「上小チャレンジカップ」といった独自の施策により、学力向上にも努めていることが分かる。学校は子どもが安心できる環境を作っていると思うので、地域に生活する者として、挨拶や声掛けをし、安心できる場や人が周囲にもあることに気付けるようにしていきたいと考える。		
中期取組目標振り返り	「知りたい・やりたい・伝えたい」をテーマに、児童の主体性を育むことを一つの目標として取り組んできた。学習を始め、日々の生活の中で課題を見つけ、進んで取り組むことができるよう計画してきたことで、成長は見られたが、まだ十分とは言えない。学習場面においては主体的な学びに繋がる単元構成や指導の仕方を今後も研究していく必要がある。また、学校生活全体においても、児童が自ら計画、実行する場を大切に、主体性の育成につなげていきたい。本校は、職員全体が児童と関わり、情報を共有できているので、今後も皆の目で見守り、個々の成長につなげていきたい。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
読解力・学力向上	①「上小ホームワーク」や「上小チャレンジカップ」を継続し、学習の習慣化と学習意欲の向上を図る。②読書タイムの活用や単元づくりの工夫・言語活動の充実を図り、児童が「知りたい・やりたい・伝えたい」と思える学習を展開していく。③言語能力を高めるための継続的な取組を行う。		
豊かな心	①自主性を高めるとともに、よりよい合意形成ができる力を育むため、児童が主体となって計画する活動を異学年交流の中に取り入れる。②豊かな人間関係の構築に向け、年間を見通した異学年交流を計画する。③日常の生活と結びつけ、振り返りを大切にされた道徳の授業改善に取り組む。		
健康・安全教育	①学校保健委員会のテーマに沿って、「体力づくり」について学び、健康な心と体について意識の向上を図る。②全校児童で縄跳びや持久走、柔軟体操に取り組み、健康・体力の向上を図る。③児童自らが考え動き、危機管理意識を高められるような避難訓練を計画する。		
地域連携・学校運営協議会	①学区探検や地域行事への参加などの活動を通して、地域の存在を意識し歴史や魅力などへの気付きから地域理解を深める。②学校だよりやHPなどを通じて情報発信を行い、現状を伝えることで理解を深めてもらう。③「地域・学校防災の日」を利用し、保護者や児童の防災意識を高める。		
いじめへの対応	①小規模校のよさを生かし、全教職員が子どもに関わり、情報共有、児童理解に努める。②定期的な「いじめ防止対策委員会」の開催や児童への生活アンケート、面談を通じ、いじめの未然防止、早期発見に繋げる。③チーム対応を原則とし、ケース会議を適宜設け、課題解決する。		
人材育成・組織運営(働き方)	①児童と向き合う時間や授業準備の時間を確保するために職員室アシスタントやICTを活用し、効率的・効果的な業務を推進する。②三部会では充実した検討と構成員の確保のため、合同部会を開催するなど、柔軟な運営を図る。		
特別支援教育	①特別支援教室の利用条件を明確化し、児童や保護者の思いを汲みながら個に応じた支援内容の検討と特別支援教室の効果的な運営を図る。②低学年を中心にMIMIに取り組み、読みの流暢性を高める。③単級のよさを生かし、学習方法や教室環境のユニバーサル化を図る。		
人権教育	①子ども同士の交流を通して、違いや多様な考えを認め合い、安心して自分を表現できる授業環境をつくる。②年間を通して計画的にYPIに取り組み、自尊感情を高めるようにする。③道徳での学習や振り返り、人権週間の取組などを生かし、日常における人権意識を高めるようにする。		
児童指導	①全職員で児童の様子や問題行動を共有し、対応を統一することで組織的に児童指導にあたる。②定期的にスタンダードの確認、見直しを行い、職員が同じ意識で児童の規範意識を高めていく。③道徳科での学習、日常での指導を通して、「自分から進んで」「表情を見て」挨拶することのよさを理解し、実践できるようにしていく。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
読解力・学力向上	c1		
豊かな心	c2		
健康・安全教育	c3		
地域連携・学校運営協議会	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
人権教育	c8		
児童指導	c9		
	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			